



会員近況

三菱総合研究所
情報処理第1部関西営業課

熊野長次郎

現在、数理計画手法にもとづく計画論と、集中定数回路解析(電界解析等の分布定数系の解析も必要に応じて)を行なっています。問題ごとに、そのつどプログラム開発は行なわず、汎用コードを取り込みながら、アプリケーション・プログラムを得る場合がほとんどです。

このような意味で気に入っているコードに、IBM社のMPSX/370とASTAPがあります。前者は、線形計画、セパラブル計画、混合整数計画を統一的に扱え、しかも、PL1から呼び出し可能です。後者は、一般的な電気回路はもちろんのこと、その柔軟な設計思想のためユーザー関数の付加により、力学系や制御系とのカップリング解析、圧縮流体の水撃現象の近似等が容易に行なえます。

最近、パラメータの最適化など、数値解析の分野への数理計画の参入が熱望されていますが、非線形性が高い大規模な数理計画となることや、理論的にも未完部分が多いため、あまり手がつけれられていません。この方面に進出しようと機会をうかがっている今日このごろです。

この他、個人的には、フラクタルや人口の集中・分散の構造のような、定性的なものの計量化に興味を抱いています。

清水建設(株)
横浜支店土木部

隈元 力

建設会社入社以来一貫して土木構造物を屋外で実際に造る仕事に従事し、22年目をむかえております。所属する学会は貴会のほか土木学会、土質工学会、その他であります。

最近読んだ本、読みかえしている本を2冊ご紹介いたします。前者は、「井上成美」井上成美伝記刊行会、最後の海軍大将の伝記で、行間に流れる教えは一見OR的なものとは離れていながら全体の流れの中でそれを感じ

させる読後感を得ました。

後者は、「確率論手法による構造解析」星谷 勝 著、鹿島出版、10年前の初版発行以来私の座右の書で、読者を土木、建築等の技術者だけに限定するにはまことに惜しい書です。力学体系の中に確率を導入した、わが国における嚆矢となるもので、とらえ方によれば構造工学だけにとどまらず、これからの計画の在り方にも有益な示唆が随所に含まれております。建設技術者には百読に値し、他分野の方にもぜひ一読を進めたいと思います。なお、昨年土木学会誌上で内外の名著調査から当書は、姉妹編とともに世界的名著に位置づけられたことを付記いたします。

自衛隊中央病院
診療放射線技師養成所長

岩下 真三

約4年前から、診療放射線技師養成の教育を担当しております。この教育は厚生省で認可された3年制の課程であり、教育成果が卒業時の国家試験で評価されることもあって厳しさがありますが、やりがいのある仕事と思っております。幸いに私が着任してから、3年連続100%合格(全国平均合格率約75%)致しており、全国の同種学校28校中、首位の座についております。

私の仕事内容は、校務の管理と講義に大別されますが、ORとの関連で申しますと、

校務管理面では、

1. カリキュラム構成に当たっての諸科目の教育順序
2. 入試成績の評価(英、数、国、物の重み)
3. 教育人員数の見積り
4. 期末試験等の成績評価

講義面では、

1. 放射線計測統計(統計学の活用)
2. 画像工学(情報理論、確率統計)
3. 応用数学、電子計算機、放射線(能)物理
4. 教育講話(物の見方、考え方、OR思想)

でありまして、いわばORの実践に務めております。

21世紀のすばらしく発展しているだろう放射線技術に思いをいたし、これを担う若い学生諸君に対し、国家試験合格にとどまらず、進展性に富む資質を与えるために、どんな教育をしておけば良いかと模索試行を続けているのが近況です。

入社当時(S49年)、まだ揺籃期であったOR部門に配属されて以来、一貫して「鉄鋼の実践的OR」にたずさわっています。最初のテーマが「輸入原料配船調整システム(シミュレーション・モデル)」であり、次に「継目無管材料取合せ」「車輪圧延ライン操業計画(スケジューリング)」を担当。S53年から目を経営計画分野に転じ、「最適プロダクト・ミックス」「経営データ解析」「オーダー配分モデル」「短期需要予測システム」「販売計画システム」を開発してきました。

みずからの活動領域を広げることを第1に、およそORの分野とよばれるものには積極・果敢(?)に挑戦してきました。最近、これらを「原料計画(大規模数値計画)」「厚板操業計画(多品種スケジューリング)」「経営

計画(多目的計画)」の3つに集約中であり、新しい展開を狙っています。

企業内の「実践のOR」において重要なことは、「実データをじっくり眺め、問題の本質を探り、機会損失を定量化する過程(いわばResearch)」であって、手法の開発は第二義的なもののようです。またテーマの選択に当っては、船・トラック・素材等の動く対象物を扱うほうが興味深く、効果も明確ですが、今後は、操業基準・材料標準・管理体系等の目にみえて動かないものを扱うことが不可欠のようです。

いずれにしても、「実践のOR」には、人と人との信頼感が大切であって、「まごころのこもった対応(茶道という「敬」)」が実は、ORの真髄(?)ではないかと感じる昨今です。

会合記録

() 内は人数

編集委員会 (OR誌)	6月8日(水) (15)
秋季大会実行委員会	6月9日(木) (5)
モニター委員会	6月13日(月) (3)

編集委員会 (論文誌)	6月21日(火) (4)
IAOR委員会	6月27日(月) (2)
秋季大会実行委員会	6月29日(水) (5)
研究小委員会	6月29日(水) (6)
庶務幹事会	6月30日(木) (7)

編集後記▶ 冬空冷い昨年の冬に構想をまとめ、発行にむけてご協力いただいた本号を、ここに会員、読者の皆様のお手もとに届けることができました。時あたかも盛夏、思えばこの1冊を世に送り出すにあたり、執筆者、編集、研究普及等の委員、モニター、学会事務局、割り付け、印刷、広告など実に多くの方々の努力が続けられたことを考える時、感謝の念で一杯です。▶この間に事務局では、退職された平井嬢に代って、寺地嬢にOR誌を担当していただくことになりました。また、長谷川嬢が新しく事務局に加わり、鈴木事務局長とともに、トリオを組みました。▶およそ物事をなすには、その結

果の評価をとまいません。本誌の場合、研究普及委員会から委嘱されている半年任期のモニターの方々のご意見が重要な羅針盤となっています。しかし、学際的な会員の性格上、特集テーマの希望は実に広範にわたり、それだけ本誌の編集をむずかしくしています。しかし、本誌の編集もアイデアの勝負! 不動産広告流に言えば、意見、投稿歓迎、半ページ、1ページ可。成功談、失敗談いずれも可。パソコンによるOR、理論の応用、トップへの売りこみ法……。 “みんなで参加、みんなで作ろうOR誌” (Y)

オペレーションズ・リサーチ

昭和58年8月号 第28巻 (新シリーズ第8巻) 8号 通巻272号
代表者 横山 勝 義
発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
(電話 03-815-3351~2) 〒113
編集人 牧 野 都 治
発売所 株式会社 日科技連出版社
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 850円 (郵送料含) 年間予約購読料 9600円 (郵送料含)

本誌への広告お申し込みは明報社 (571-2548)、日経弘報社 (563-2241) へ